

下越地区連絡会 With コロナの時代について ディスカッション開催

10 月 30 日ユニゾンプラザにて 7 団体 43 名（村上市消費者協会は欠席）が参加されました。三密を避けて人数制限を設け、講演会はとりやめ、パネルディスカッションを開催しました。

ディスカッションのテーマは「With コロナの時代に心身の健康とコミュニティをどのように確保するか」。担当は新潟支部、パネラーは 7 地区の代表、アドバイザーは新潟医療福祉大学健康科学部健康スポーツ学科 佐藤浩紀講師、コーディネーターは新潟支部の藤原茂昭さん。



パネルディスカッション 写真右端 アドバイザーの佐藤浩紀講師



ディスカッションの内容

三密を避け、コロナと共生していくにはどんな意識をもちたいのか、どんな方法があるのかなどをパネラーの発表と佐藤講師のコメントでディスカッション。

①趣味や娯楽を通して心身の健康をどう保つか、どう向き合うか

無理をせずに、不安感情は、ポジティブ感情に焦点を。興味をもったこと、できることをやっていく。

講師より：家庭、職場でもない場に役割を見出す。新しい知識や SNS など取り入れるのもあり。知らない世界から自己発見を。

②消費者協会やその他社会とのつながり方

行事は地域によって全て中止や工夫して実施

た。やはり会えることはうれしかった。コロナ禍で世の中が変わった。北区の人と言うことで不安を持たれた。カタカナ言葉（テレワーク、オンラインなど）が増えた。

講師より：ボランティアは出入り自由な活動。参加を遠慮している人には戻ってこれるイスを用意し、それを伝える。多様な参加のあり方を企画する。

カタカナ言葉は優しい日本語バージョンを消費者協会でもつくとよい。

不安や差別は情報の不確かさから生まれる。正しい情報を理解し、積極的に配信してほしい。

活動は頑張りすぎず、無理をせずに持続可能な活動を。

おめでとうございます！

豊栄支部 服部 美和さん

豊栄支部創立から 41 年間運営に関わり、地域の環境保全活動にも活躍され、県協会から推薦され
 令和 2 年度 全国消費者協会連合会功労者として表彰されました。